

木は1年に1回実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。
【3～5年で資金3倍化を目指して】

(ご案内)レポートの名称が長期投資から資産形成に変わりました。内容の変更はございません。

今回のNYダウの暴落暗示(1/22号で紹介)は実現し、近々当面の底打ちの可能性も

1/22の第2号で、出島投資ワールドで分析した「柴田野線で読むNYダウの再暴落」の中で、1/14に柴田野線に暴落暗示が出ていることを紹介しました。その後いったん暴落暗示が先送りとなりましたが、2/10(火)の381ドルの7888ドルと8000ドル割れをきっかけに暴落暗示を実現する動きとなり、2/18号では先送りとなっていた暴落暗示が実現中としました。そして昨日(3/2)のNYダウは299ドルの6763ドルと1997年4月以来約11年10ヶ月ぶりの安値となりました。そして本日の日経平均は、前場は7088円の安値をつけて終値でバブル後最安値を更新し、終値は50円の7229円となっています。

このような動きは、昨日(3/2)の出島投資ワールドの一言メッセージで想定していましたので、このメッセージを臨時号としてお送りします。短期売買を行う人には出島投資ワールドの日々のメッセージは必要ですが、この「金のなる木」は低位株をじっくり、少しずつ買い下がって3年～5年の長期で大きく実らせるのが基本ですので、明後日の3/5号で紹介する予定でした。ただ、早く反発して低位株が安くなったところを買い損なうこともありますので臨時号としました。日経平均は7000円前後とした第2の待ち伏せゾーンまでできました。但し、相場には上にも下にも行き過ぎが起きますので7000円を切る場面も想定しておくのがよいでしょう。今回はそうなくても弱気になる必要はありません。買ポイントの や まではいつまでか来ていますので、じっくり買っていくところです。100年に1回の経済環境ですので業績の下方修正・無配転落などは当たり前になりますので、余裕を持ってじっくり構えてください。現物で保有する限り時間の経過が富をもたらすこととなります。現水準の100円以下の株価で配当がある銘柄を紹介しておきます。3/5号でもう少し詳しくお見せしますが、現在の株価水準から下は買っていくところです。

銘柄	コード	3/3の終値	最低購入額(3/3現在)
西松建設	1820	81円	81,000円
富士紡ホールディングス	3104	67円	67,000円
大日本塗料	4611	79円	79,000円
古河機械金属	5715	71円	71,000円
ユアサ商事	8074	88円	88,000円

**NYダウの中期と当面の動きから日経平均を考える
...今週は、下がったところは積極買いしていくところ...**

< NYダウに23ヶ月周期説があり、その底は今年の9月 - 今年底打ちの1つのシナリオ >

オバマ政権も誕生前までは、次々と大きな政策を打つものと期待されましたが、現実に誕生すると共和党と民主党の党利党略の違いから妥協を余儀なくされ、株式市場も期待ハズレから昨年来安値を切る動きとなっています。金融不安は大手銀行や大手保険会社の追加損失が生じ不透明さは晴れませんし、GM、クライスラー問題も先がみえません。ただ、景気対策法案はひとまず成立したのでこれが実態経済にどれだけ効果があるのか見極めるところとなります。バーナキン議長は2/24(火)に「金融安定化が実現すれば景気後退は年内に終わる」と発言しましたが、そのような動きになるとすれば、NYダウで23ヶ月周期という景気循環説があてはまることとなります。つまり2007年10/11に1万4198ドルの史上最高値をつけて下落中ですが、この底打ちが23ヶ月目とすると今年の9月にあたることとなります。日本の場合だと37ヶ月周期がありますが、これだと日本の底打ちは来年の10月以降となってしまいます。今回の世界的不況はアメリカ発なのでアメリカが底打ちすれば当然、日本も連動することとなりますので、1つのシナリオとして今年の9月底打ちを想定しておくのもいいかもしれません。日本の場合、麻生首相が解散せず任期まで続けるとしたら9月ということになり、民主党政権の誕生で株価が上昇に転じていくということとなります。(常識的には9月までに解散総選挙はあると思われまます)それまでの間はおそらく底バイ(なべ底のような大底圏での上下動の繰り返し)となるかもしれません。

< 今週(場合によっては来週にズレ込むこともあるが)は、アメリカ株式の当面の底打ちの可能性はある >

先週の2/23(月)は、AIGの600億ドルの追加損失を嫌気して250ドルの7114ドルと11年9ヶ月ぶりの安値となりました。翌日(2/24)は、バーナキン議長の「金融安定化が実現化すれば景気後退は年内に終わる」との発言を受けて236ドルの7350ドルと前日の下げ幅を取り戻す発言となりました。しかし、その後は経済指数の悪化やオバマ大統領のヘルスケア改革計画の発表を受けてヘルスケアセクターが下落し、2/25(水)は80ドル、2/26(木)は88ドルとなり、週末はシティーグループの普通株を政府が大量に取得すると発表したことで、金融株安から全面安となり119ドルの7062ドルと安値更新となり、柴田野線ではさらに「ろく売」出現となりました。このまま反発して2/24の7378ドルを上をぬけると「ろあ買」となって目先底打ちとなる可能性が高いのですが、ナスダックからみると、さらに一段安の可能性が高いといえます。

NYダウはすでに昨年の最安値11/21の7449ドルを切って、先週末は7033ドルまであって終値は119ドルの7062ドルとなりました。普通は7000ドルという大台は心理的な抵抗ラインとなるところですが、今回はこの水準で反発するのかどうか難しいところがあります。それはナスダックをみると昨年の最安値11/21の1295Pを切っておらず、先週末は13Pの1377Pとなっかなり下げ余地があるからです。時間が多少ズレても普通は、主要指数は同じような動きをし

てきますので、今週ナスダックが昨年の 11/21 の 1295P を試す動きになるとしたら N Y ダウは 7000 ドルを大きく割れてくる可能性があります。すでに先週末の N Y ダウ先物は 6942 ドルをつけました。

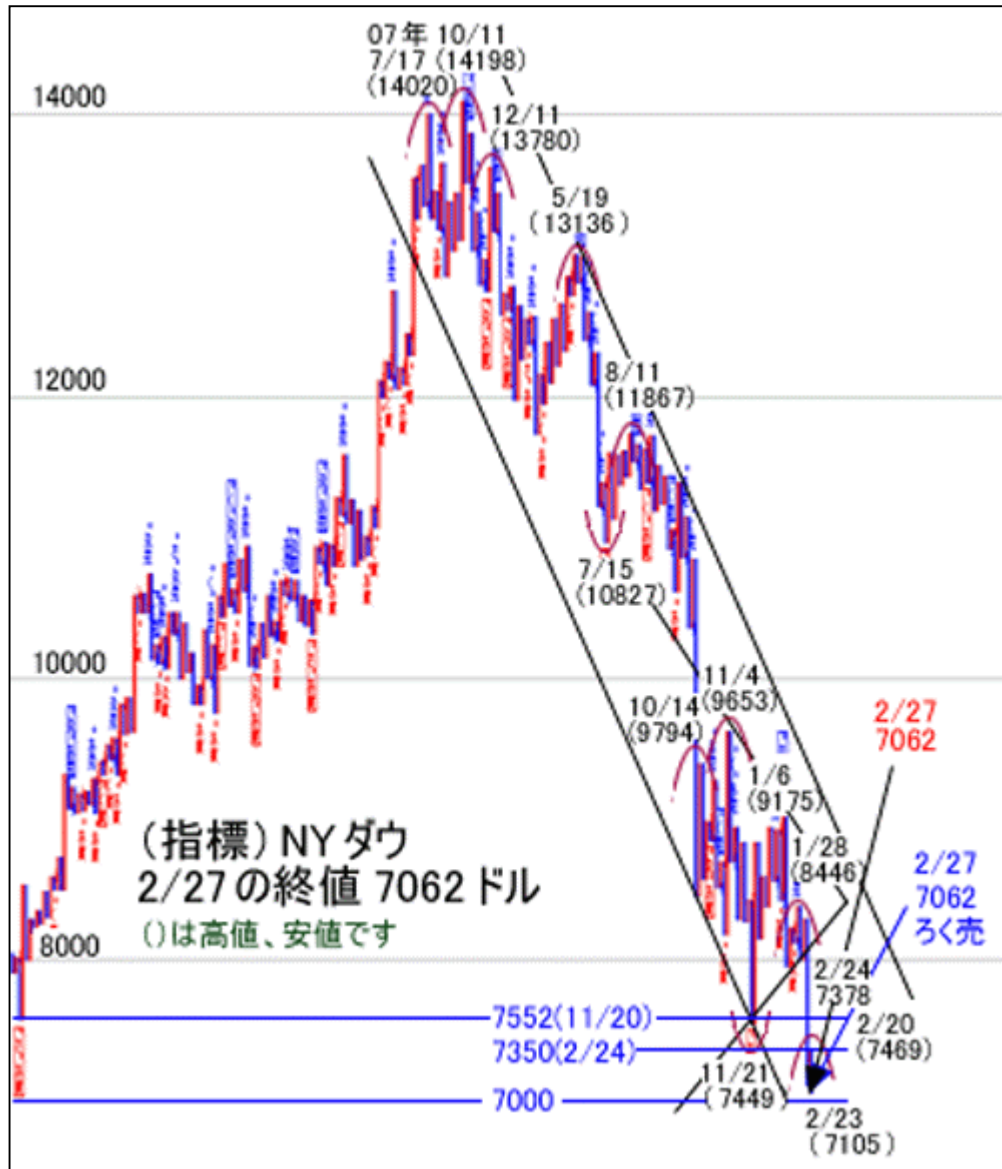
<アメリカ株式に連動して、日経平均も目先の底打ちの動きとなる可能性高い>

先週は、底打ちとしては日柄や株価の位置からもやや中途半端なところからの戻りとなり、反発の日数は短いことが想定されました。週末に 7568 円の終値となったものの引け後の N Y ダウが 119 ドルの 7062 ドルと安値更新となったことで、3/2 の日経平均は 288 円の 7280 円となりました。

結局は、アメリカ株式の当面の底打ちができなければ、日経平均はそれなりの戻りは難しい状況です。そうはいつでも日本市場は 3 月期末決算を控え、月末の株価は日経平均で 7800 円水準が必要なところではあります。これを維持できないと銀行の金融不安が再燃してくる可能性があります。そのため、先週も公的年金が買い支え、政府の株価対策期待から下値は固い動きとなっていました。3 月末の株価は政府がなんとか最低水準を支えなければなりません。N Y ダウが 7000 ドルを大きく割っても日経平均は 7000 円を少し切るかどうかぐらいで止まる可能性があります。そのために先週末に 7589 円までいったん上昇させているともいえます。3/2 は終値で 7248 円を切って引けると N Y ダウやナスダックのように「ろく売」が出るところでしたが、7234 円、まであって終値は 7280 円となりました。明らかに P K O がはいているのが読み取れます。

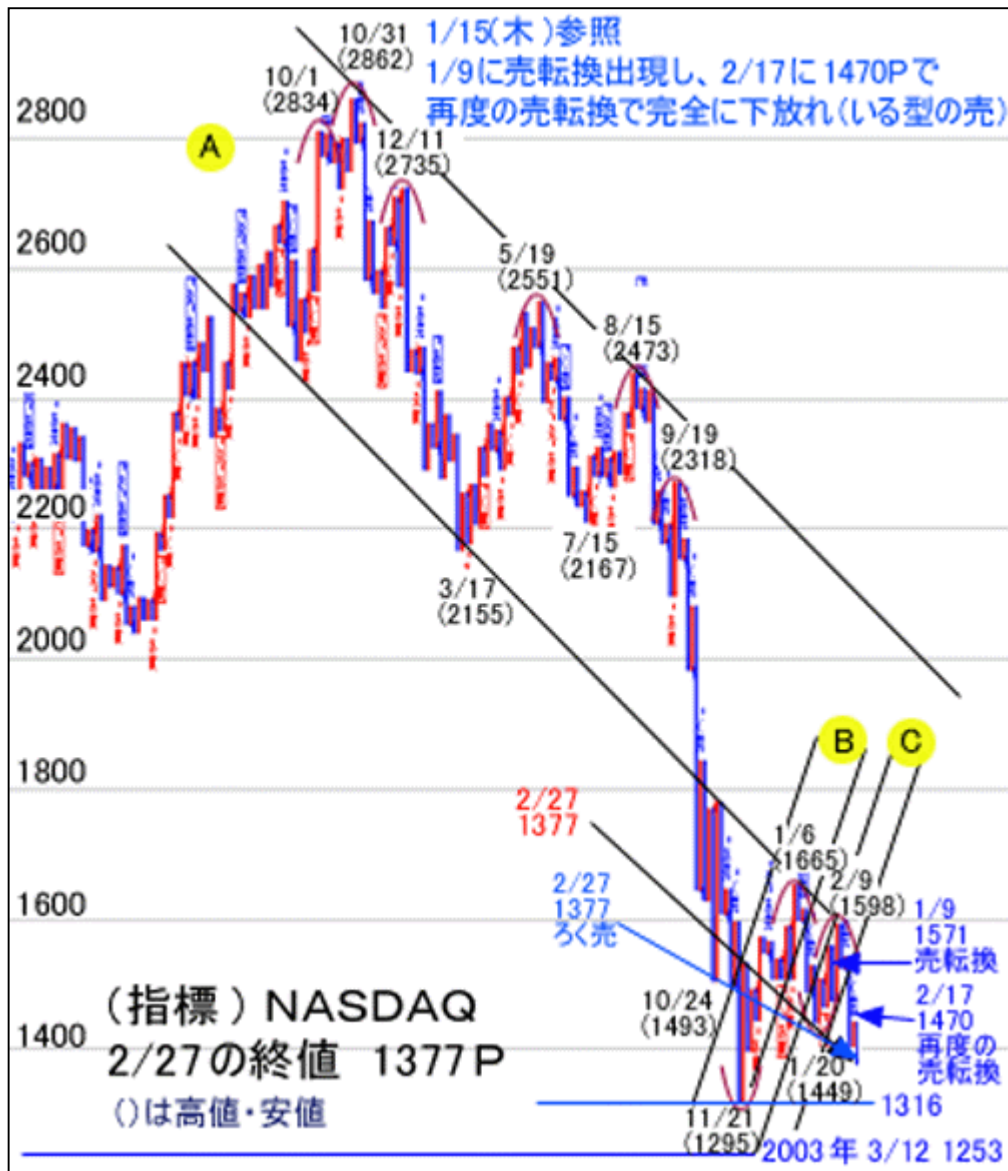
今週は S Q 1 週前のプットとコールの攻防がありますので、月火水下げて木か金に大幅上昇すれば、コール有利となって来週末の S Q に向けて上昇することになります。それとも N Y ダウが今週も下落が続くようであれば、来週の S Q 前後が安値となって月末に向かって上昇するパターンも考えられます。私は今のところ今週が当面の底となる確率が高いと思っていますので、現水準さらには 7000 円前後から下がれることを想定して個別株は積極的に買っていくところです。為替はそろそろ円安一服となるところです。

NYダウ



先週の2/23(月)は、A I Gの600億ドルの追加損失を嫌気して 250ドルの7114ドルと11年9ヶ月ぶりの安値となりました。翌日(2/24)は、バーナキン議長の「金融安定化が実現化すれば景気後退は年内に終わる」との発言を受けて 236ドルの7350ドルと前日の下げ幅を取り戻す発言となりました。しかし、その後は経済指数の悪化やオバマ大統領のヘルスケア改革計画の発表を受けてヘルスケアセクターが下落し、2/25(水)は 80ドル、2/26(木)は 88ドルとなり、週末はシティーグループの普通株を政府が大量に取得すると発表したことで、金融株安から全面安となり 119ドルの7062ドルと安値更新となり、柴田野線ではさらに「ろく売」出現となりました。このまま反発して2/24の7378ドルを上にくぐると「ろあ買」となって目先底打ちとなる可能性が高いのですが、ナスダックからみると、NYダウが昨年の安値7449ドルを大きく切っているのにナスダックは切っておらず、11/21の1295Pを試す動きとなればNYダウは一段安となってきます。

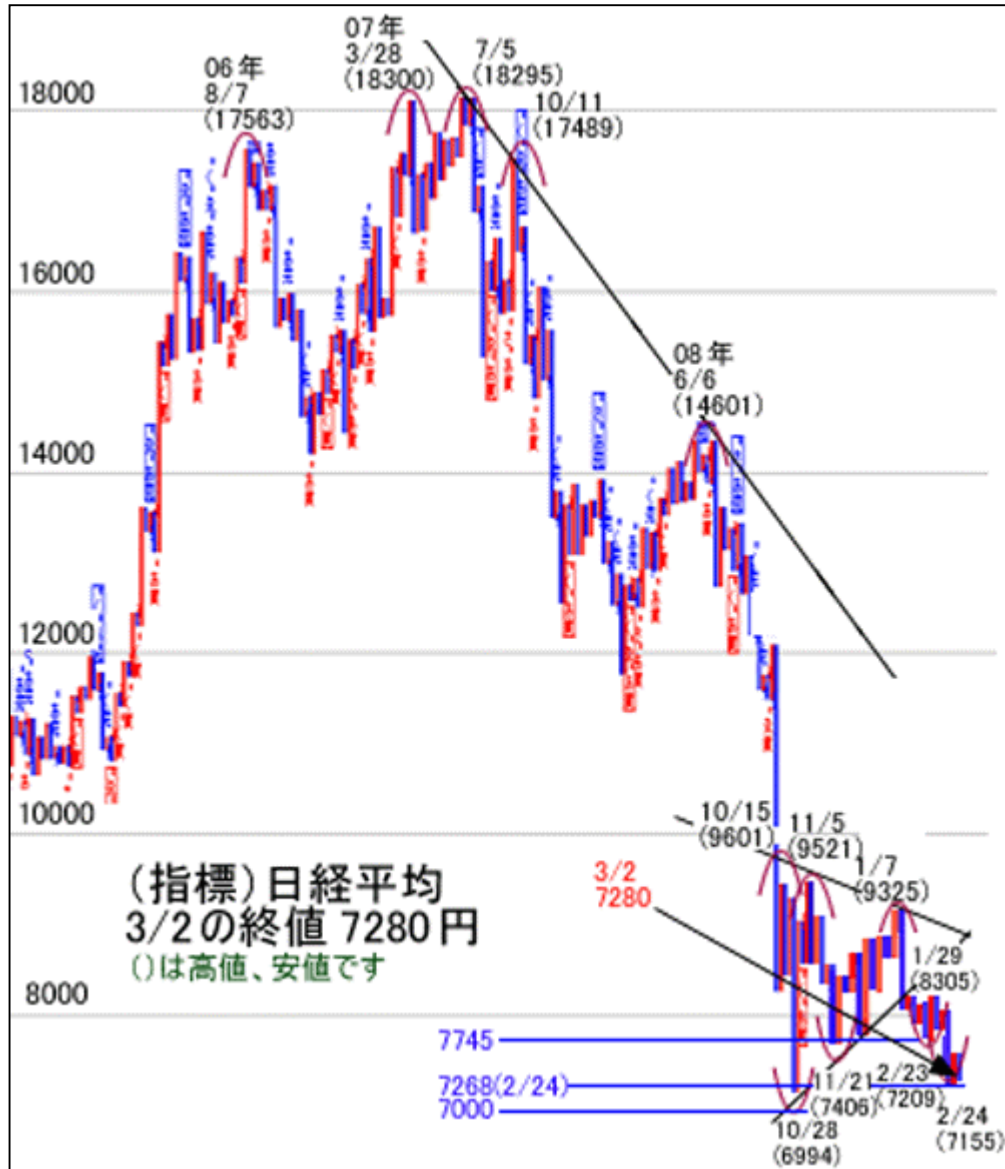
NASDAQ



ナスダックのチャートを見ると、昨年の8/15の2473Pからサブプライム問題で急落し、11/21に1295Pの最安値をつけました。ここから戻りに入って短期の上昇トレンド(B)を形成し、今年の1/6の1665Pで戻り天井となって1/9に売転換が出現し、この上昇トレンド(B)を切って1/20に1449Pまで下落しました。そしてここから再び短期の戻りトレンド(C)を形成して2/9に1598Pの戻りの2番天井をつけて再下落となり、戻りトレンド(C)を切って2/17に1470Pで再度の売転換が出現して大きく下落し、週末は1377Pで大きく売が出現してきました。このチャート(柴田罫線)の形は、8/15から急落して11/21の1295Pで当面の底を打って上昇トレンド(B)を形成して1/6の1665Pで戻り天井となって下落し、1/20の1449Pから再び同じ角度で戻って2/9に1598Pの2番の戻り天井となって戻りトレンド(C)の下値斜線を切ると大きな下げを意味する「いる型」というのに当てはまります。

「いる型」というのは柴田罫線の第7法則であり「二重の押し戻り斜線切転換の奥儀」というものです。わかりやすく説明すると、大きな下落相場がいったん止まって戻りにはいい、その戻り高値から多少下げて、再び追従するような戻りになったあと、その戻りのトレンドの下値斜線を切ると暴落という法則です。ナスダックは2/17の再度の売転換でそのような形ができあがって大きな下げとなっています。

日経平均



先週の分析では、7000円を割れる場面があれば売られ過ぎとなって反発するか、7000円～7200円のどこかで止まって目先反発も考えられるとしました。2/24(火)にザラ場で7155円まで下落して終値は7268円となり目先反発となりました。しかし、日柄から見ると下げがもう1日足りず、戻しても長くは続かない事が想定されました。日経先物で7560円を突破すると一段高となって戻りが終わるパターンも考えられましたが、週末は、日経平均は7589円まであって終値は110円の7568円、日経先物は7560円ピッタリで終わり、あとはNYダウの動き次第となっていました。そのNYダウが先週末に119ドルの7062ドルと安値を更新して終わっていましたので、3/2の日経平均は288円の7280円となりました。今週は、NYダウが当面の底を打つ可能性が高く、そうなると日経平均も同じ動きになります。日経平均7000円前後より下が出ると買っていくところです。10/28の6994円に対するダブル底のような形になるのか、それとももう少し下げて売られ過ぎからの反発となるのかに注目。